アイス　ブレーキング

毛利　邦彦*1
MOURI Kunihiko

講演会やシンポジウム等の冒頭で講演と直接関係ない話題を提供して，緊張した会場を和らげる「枕」を英語では「アイス　ブレーキング」と言います。

今月号の喫茶室から連載が可能で有れば，私が使う「アイス　ブレーキング」の例を紹介したいと思います。

下に示す2つの化石の写真があります。一つは中国四川省産の恐竜の卵の化石ともう一つはロシア産の三葉虫の化石です。

恐竜の卵の化石は米国ロスアンジェルスにて1000ドル（約12万円）で購入しました。これを家に持ち帰った次の朝，年取った母に言われました。「昨晩は一睡も出来なかった。いつ恐竜の卵がふ化して，私を食べてしまうのではないかと」90歳に近い母であり，笑えぬ思いもしたが，そのような思いも有るかと。

三葉虫の化石には「触角」がある珍しいものです。折れやすい「触角」が残っているので，これは東京で毎年開催されている国際化石展で購買したもので13万円もしました。「触角」がない三葉虫は通常3000円位で売っています。

私の友人はこの化石を見て，プラスチックで出来た贋物であると，馬鹿にした顔をして，笑っています。私はこう言って反論しています。「写真右上に購買した店の証書があるのは，この化石がまがい物でないことの証明だ」と。

今の日本の電力業界は電気事業法の大幅な改正により，規制緩和が進んでいます。電力会社も寡占独占の時代から競争の世界にシフトしようとしています。また発電技術も集中・大型化の発電技術から小規模・分散型発電技術へと関心の目がシフトして来ております。安定・継続の社会から変化・消滅の社会に変わろうとしております。この社会に生き残るためにはどうしたら良いのか。この化石がそのヒントを与えて呉れています。恐竜は大きく強い生き物で，何者にも負けない生き物でしたが，今は絶滅して存在していません。気候の変化に適用出来たゴキブリは今でも生き残って，これからの変化にも生き残ると思われます。

また，三葉虫の化石は「触角」があると13万円，「触角」がないと3000円とその価値が大きく変わります。「触角」は英語で「antenna：アンテナ」です。私たちはこの変化の動きを敏感に察知するアンテナを持っていなければ，変化を認識できず滅びる危険に晒される事があります。昔は銀行が潰れる事は考えられませんでしたが，今はその現実が確実に起こっています。大企業であろうともこの変化に柔軟に対応するためにはアンテナを張り巡らし「価値」ある情報を収集しなければ生き残れないのではないでしょうか。

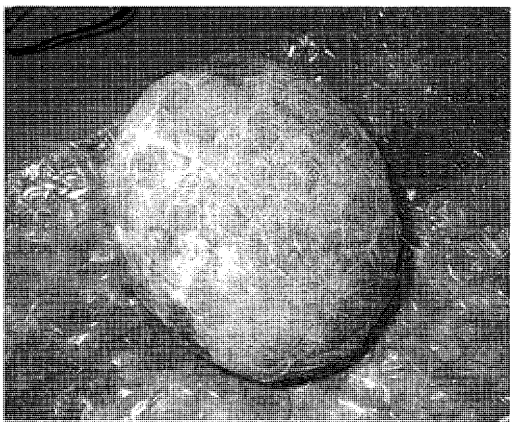
この二つの化石を眺めていると，私の思いは1億数千万のタイムトラベルし，そして現代に戻り，現代を生き残る「教訓」を再認識しています。

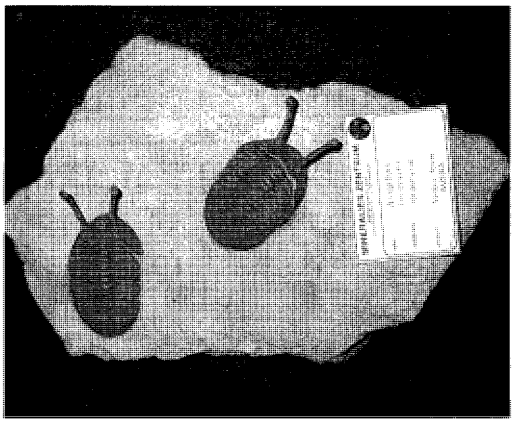
欧州への3次元の旅には80万円位掛かります。1億数千万年の4次元の旅は25万円，安い買い物をしたと思っているのは自己満足かも。

この化石についての話を規制緩和，分散電源の台頭を題材にした講義や講演会には必ず用いることにしております。

もし，この話をお使いになる方がいましたら，ぜひお使い願いたいと思います。

次回は「恐竜の糞」の化石について，お話をします。





原稿受付　2003年4月23日
＊1　電源開発㈱　技術開発センター
〒235-0041　神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎1-9-88

Download service for the GTSJ member of ID , via 126.141.102.194, 2024/06/08